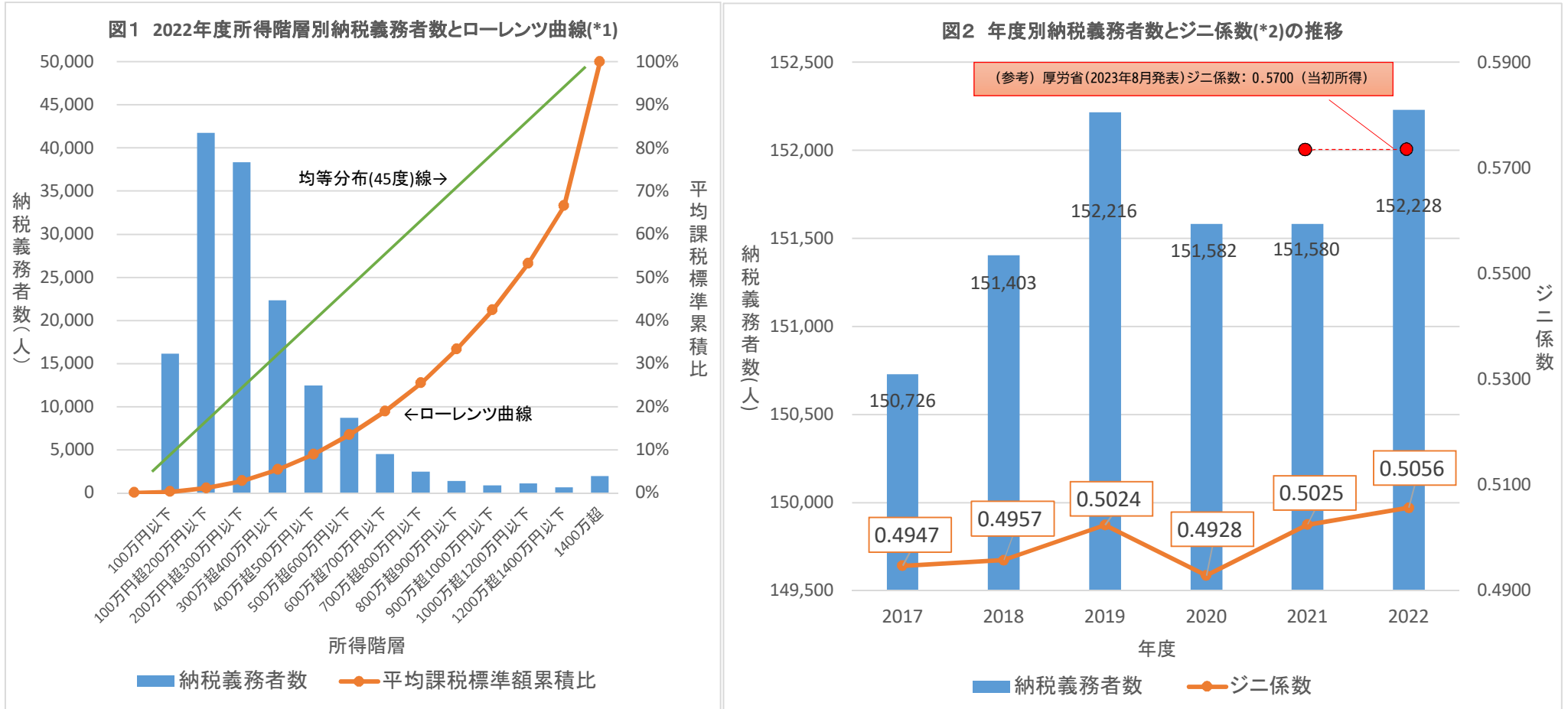


郡山市の所得階層別納税義務者数の分布と所得格差(2022年度)



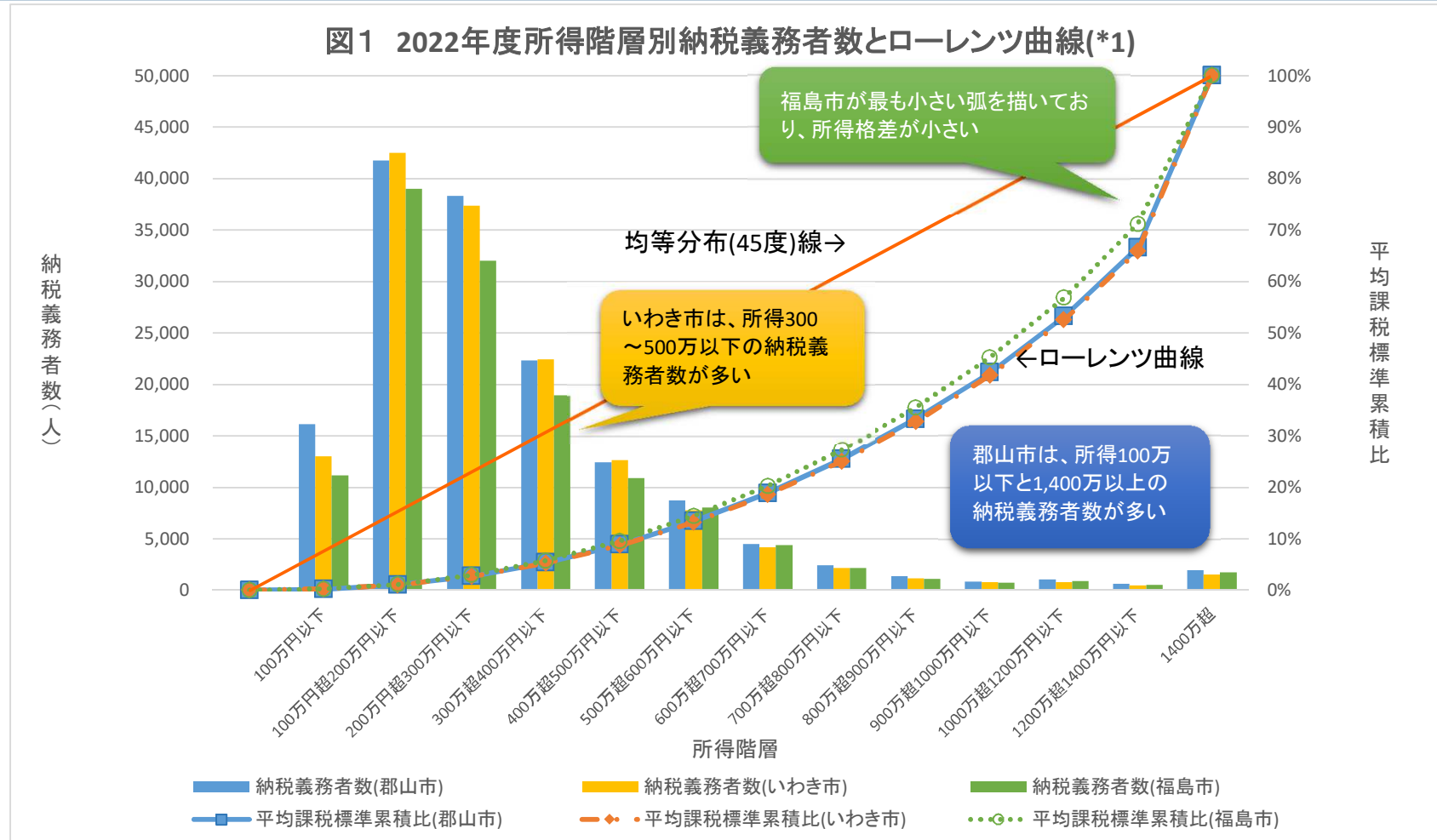
*1)ローレンツ曲線: 郡山市における所得割のかかる納税義務者を所得階層順に並べ、各階層毎一人当たりの課税標準額の累積比率をグラフ化したもの。均等分布(45度)線からの離れ具合により所得の格差を表し、格差が小さいほど45度線に近づき、格差が大きくなるほど下方に大きく膨らむ。図1は、2022年度における本市の所得階層毎の納税義務者数と、一人当たりの課税標準額による格差状況を表したものである。

*2)ジニ係数: ローレンツ曲線の膨らみ具合を数値化したもので、数値が小さいほど所得格差が小さく、大きいほど格差が大きいことを表す。図2は、本市における直近5年間の、所得割のかかる納税義務者数とジニ係数を表したもの。2020年度は令和元年東日本台風被害による雑損控除等により、ジニ係数も過去5年間で最も低い値と(格差が小さく)なっている。**2022年度は納税義務者数は増加傾向にあり、ジニ係数がやや大きくなっている。これは700万円超~1,400万円超の所得階層の納税義務者の増加及び100万円以下の所得階層納税義務者数の増加によるものであり、コロナ禍からの経済回復の二極化を表しているとも考えられる。**

注意!) 今回の結果は、いわゆる「所得の再分配(他の税や社会保障等による再分配等)」前の参考値としての比較であり、厚労省の調査では、通常再分配後の格差は30%程度低くなる。

参考資料1

郡山市・いわき市・福島市の所得階層別納税義務者数の分布と所得格差(2022年)



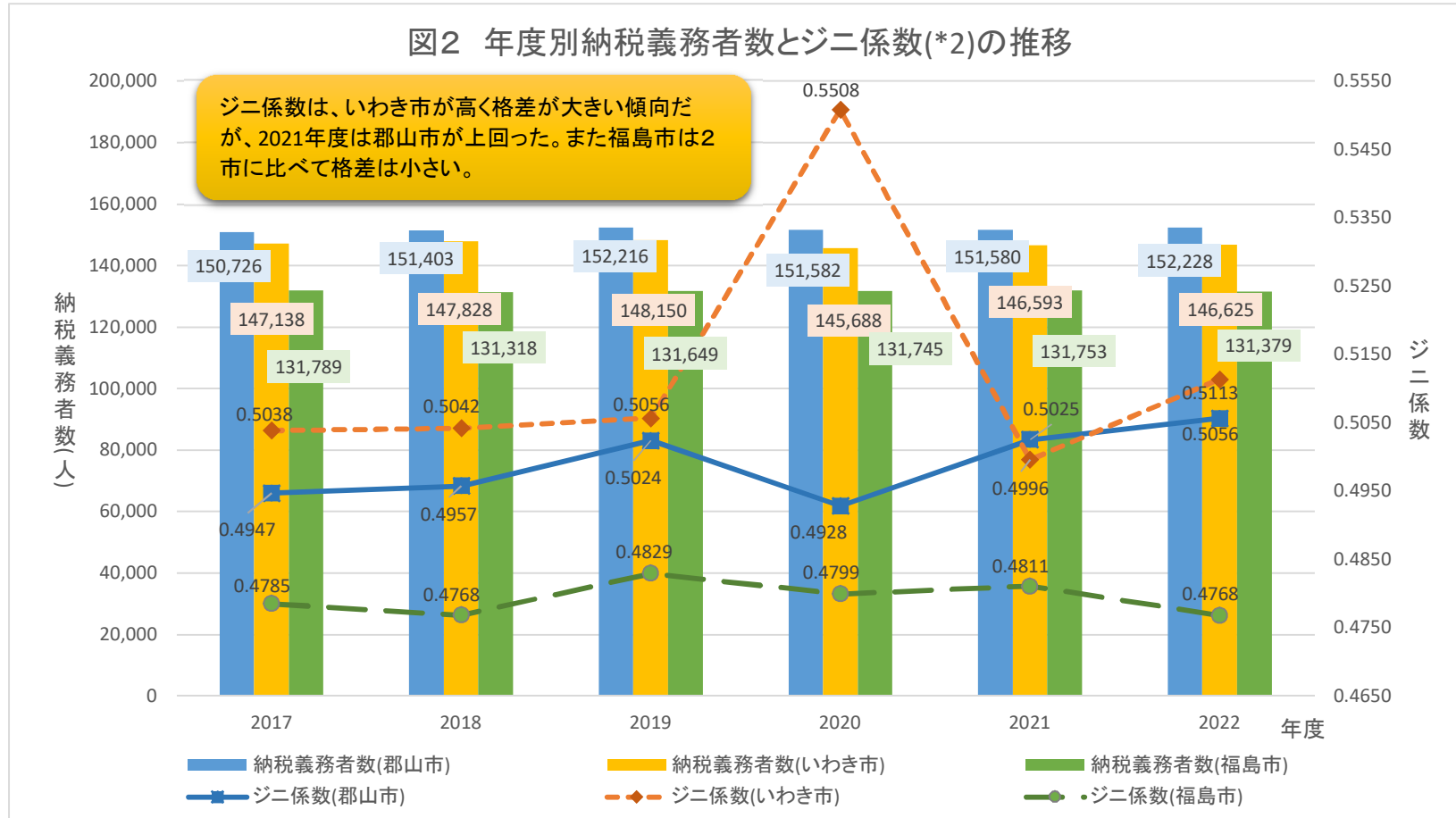
*1)ローレンツ曲線:郡山・いわき・福島各市における所得割のかかる納税義務者を所得階層順に並べ、各階層毎一人当たりの課税標準額の累積比率をグラフ化したもの。

均等分布(45度)線からの離れ具合により、所得の格差を表し、格差が小さいほど45度線に近づき、格差が大きくなるほど下方に大きく膨らむ。

図1は、2022年における各市の所得階層毎の納税義務者数と、一人当たりの課税標準額による格差状況を表したものである。

ローレンツ曲線では、郡山市といわき市がほぼ同じ弧を描き、福島市がやや小さい弧を描いており、2022年においては、福島市が3市の中で最も格差が小さいといえる。

参考資料2



*2)ジニ係数：ローレンツ曲線の膨らみ具合を数値化したもので、数値が小さいほど所得格差が小さく、大きいほど格差が大きいことを表す。

図2は、郡山・いわき・福島各市における、直近5年間の所得割のかかる納税義務者数と、ジニ係数を表したもので、3市の中では、いわき市がやや数値が大きく(格差が大きい)、福島市が小さい(格差が小さい)傾向がある。

なお、所得割のかかる納税義務者数では、3市の中では郡山市が最も多く、次いでいわき市、福島市の順となっている。

注意！)今回の結果は、いわゆる「所得の再分配(他の税や社会保障等による再分配等)」前の参考値での比較であり、厚労省の調査では、再分配後の格差(ジニ係数)は通常30%程度低くなる。